

第6節 顕在化する地球温暖化への適応

1 地球温暖化の影響と適応策【環境政策課】

(1) 適応策の検討

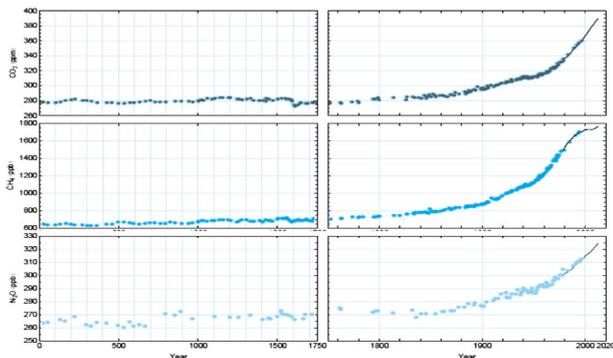
平成26年10月、国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC：Intergovernmental Panel on Climate Change）」は、デンマーク・コペンハーゲンにおいて、第5次統合報告書を承認しました。

この報告書によると、温暖化の原因が人間の活動である可能性が極めて高い（95%以上）とし、今後、有効な対策がとられなかった場合、今世紀末に地球の平均気温が最大4.8℃、海面水位は82cm上昇すると予測しています。

現実には、日本の平均気温も1898年～2008年の観測結果によると、100年当たり1.11℃の割合で上昇しており、本県においても、平均気温の上昇がみられます。

温暖化の影響は、様々な分野にわたって、暮らしに関わります。報告書では、地球温暖化対策には、緩和策と適応策の両方の取組みが必要であると述べています。温室効果ガスの排出量を削減する努力は重要ですが、削減しても何らかの温暖化影響が生じるといわれており、その影響に適応していくことが重要になります。国においても、平成27年夏を目途に適応計画の策定を目指しています。

本県においても、平成25年度に改正した「福井県環境基本計画」の中で、「顕在化する地球温暖化への適応」として、県内の温暖化の影響と考えられる事象について、様々な視点からさらに詳しい現状分析を行うとともに、様々なツールを活用して、本県における温暖化の影響を予測していくこととしています。

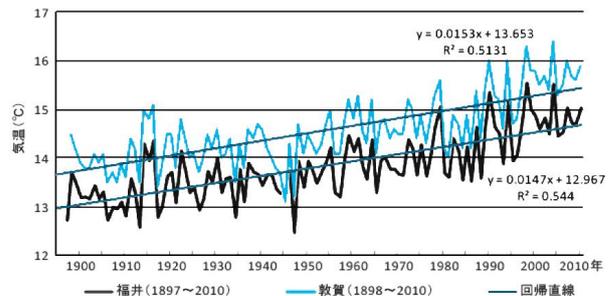


出典：IPCC第5次評価報告書第1作業部会報告書
図2-6-1 温室効果ガス濃度の推移

(2) 本県の現状例

①本県の平均気温の推移 図2-6-2

本県においても、平均気温の上昇傾向が観測されています。

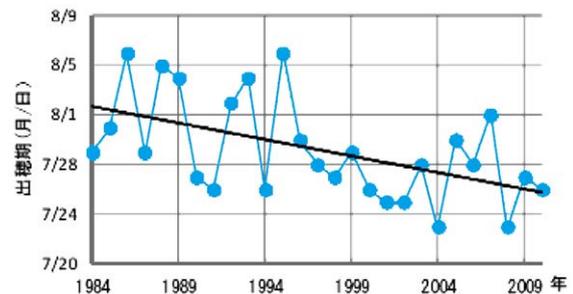


＊福井は1948年1月に観測場所を移転したため、移転による影響を取り除いた「気候解析平均気温」を用いて、長期的な変化傾向を求めている。

出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書（福井県衛生環境研究センター）

②コシヒカリの出穂期の推移 図2-6-3

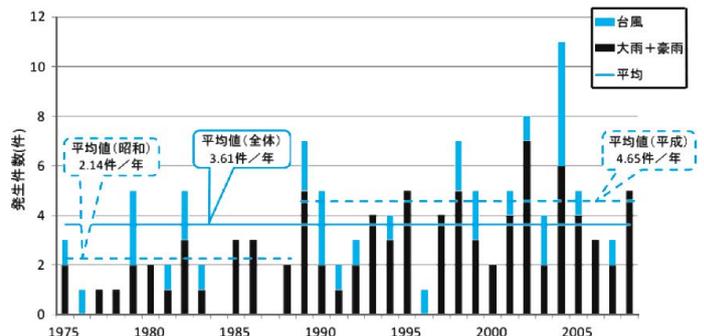
本県が発祥の地であるコシヒカリは、1990年代後半以降、出穂期が早くなる傾向があります。（産業への影響例）



出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書（福井県衛生環境研究センター）

③風水害の発生件数の推移 図2-6-4

風水害の平均発生件数が、年々増加する傾向にあり、平成になってからの平均発生件数が約2倍になっています。（災害への影響例）



出典：「福井県から見る地球温暖化」調査研究報告書（福井県衛生環境研究センター）

分野別施策の実施状況

地球温暖化対策の推進